

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.21 平成26年12月19日発行
発行責任者：高一伸

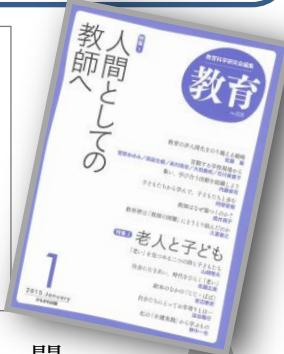
〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org

メールは
こちら



いまを見つめ、希望を紡ごう！

2学期の締めくくりに教育実践を語ろう！



「人間としての教師へ」

雑誌「教育」1月号では関東で奮闘している(新採用から5年未満の)

若い先生の日常と思いが紹介されています。簡単にご紹介します。

夏から秋へ、そして冬へと季節が移り変わる2学期。子どもたちは毎日少しずついろんな経験をしながらもうすぐ終業式を迎えようとしている頃...ではないでしょうか。

私たちの仕事のペースで言えば、学期末で慌ただしい時期ではあるものの、子どもたちと「2学期がんばったね」というまとめの取り組みをする時間というのは、なんともほっこりする良い時間であるはず。

今回の宗谷情報では、雑誌教育1月号の特集「人間としての教師へ」から引用しながら、「先生の仕事」についてまとめます。

考え続ける、立ち止まって

埼玉の菅野さん。学校の「守らせなければならぬ決まり」の理不尽さを感じながらの日常や「シメる」立場、いわゆる強い指導をしなければならない立場となったときに感じた葛藤をまとめています。こうした中でも「仲間とつながり、悩んだときに思い浮かべる人がいて、考えを共有すること」が支えになっているそうです。



子どもをまるごと受け止めたい

東京の高梨さん。新採用として勤務した際の指導教諭のパワハラを克服した経験と、晃太郎という男の子を3年生、5・6年と担任、集団として成長した過程をお母さんと一緒に涙を流して喜んだという経験が綴られています。「子どもをまるごと受け止められる教師になりたい」とまとめています。

「顔の見えない教育」に抗って

埼玉の岩村さん。管理職からの「クラスの雰囲気こそろえろ」と言う言葉に対して「人間が生きていくことはそういうことではない」という信条を大切にしながら、学級に居場所がないアスカに寄り添い、クラスという集団が変わっていく経験を綴っています。



若い先生の奮闘 似てること感じていませんか？

学力向上、到達目標、ゼロ・トレランスなど、子どもを「はみ出さない」指導や「グローバル社会で生き抜くために」などという施策から来る雰囲気などが広がっている現状を、雑誌「教育」では「教育の非人間化」

ととらえ、こうした現実に対して教師は「子どもたちに学ぶ楽しさを伝え、子どもたちとともに人間として成長していきたいと願って教師になったはず」と特集の冒頭で挙げています。
私たちの身の回りではどうして

組合には、「分会会議」がある！

よう。「うちの職場は宗谷らしい働きやすさがある」とか「力合わせできている」という声がある一方で、

子どもの指導に困難性があると苦しみを訴える声があるのも事実ではないかと思えます。

全国的に、民間教育団体が地道に教研運動を進めています。宗谷教組もそうです。日常的に、「本当にこれでいいのか」「もっと温かみのある実践をしたい」という声を大切につかみ、ひとつひとつのつばやきを「教師の学び」として紡いでいくこと、教育実践を語り合う術を交流していくことを大切にしていきたいものです。
宗谷教組には、分会会議・支部会

議があります。こうした場で日常感じていることや、仲間の実践を見たり聞いたりすることは、もうそれだけで大きな学びです。各支部青年部が学習会をしたり、本部の若い先生が「先生とたまごのつこ(セントマ)」の開催もあります。
まずは継続的に集い合う。そこから学びが広がります。2学期の終わりに組合に集い、宗谷のあちらこちらで、先生方の輪が広がる。そんな場づくりをしてみませんか？

組合の集まりいろいろ



11月28日に幌延の組合員のみなさんが居酒屋に集いました。現在、幌延の組合員のみなさんは全部で6名。今年自分たちで集まることを大切に活動してきました。支部会議と居酒屋さんでの交流を交互にしながら、自分たちの街、自分の学校について語り合うことを大切にしています。



毎年恒例となった「浜頓別・中頓別・猿払支部交流会」が12月5日にはま



んべつ温泉ウイングにて行われました。組合をひっぱりみなさんの世代が変わっても雪が積もるころに行われる伝統行事となってきた「三支部交流会」。今年は、若い先生が司会をするなど運営に携わってくれました。こうして、活動が創られていくこと・つづいていくことの良さを感じるひとときでした。



1月17日(土)
14:00~16:30
場所はお問合せください。

テーマ「学級通信・教科通信の交流」/ 申込は宗谷教組本部まで

管内人事異動の動向

宗谷教職員組合調べ
2014. 12. 15現在

宗谷教職員組合では、組合員を中心として独自に人事動向を調査してきました。宗谷教組の組織力量から、上記に挙げる数値は確かなものではないものの、管内的な傾向はつかめるものだと考えています。その上で、宗谷教職員組合として今年度の管内課題を次の七つにまとめます。

教職員集団として

課題を受け止めるために

宗谷教組では、「次の学校をどこで迎えるか」という意識を持つことを訴えています。これは、管内課題のひとつであり、組合としても秋の学習会で大切さを確かめ合ってきました。私たちが自覚的に考え、行動することが宗谷の民主的な学校づくりを進めることになるのです。

今後は、今年度の人事課題を組合だけでなく、宗谷の教職員全体で考えることが大切です。そのために、局による管内課題の指摘を待ちながら、管内の教職員でこの課題について考え合えることを願います。こうした全教職員による営みが「学校づくりを豊かにすること」につながります。

【今年の管内課題について】

- 南宗谷の小学校、利尻・礼文の小学校で実際にはより多くの先生を必要とするかもしれません。
 - ・南宗谷は、他管のみ希望をする方が多いことから、表の数字よりも実際には多くの先生が必要になることも想定されます。
 - ・利尻・礼文の小学校では、教員定数が確定的でない部分があるため、今後さらに多くの先生を必要とする事態も想定されます。
- 「稚内大規模中学校を希望する」という先生が若干少なく、管内課題の解決が困難になることが想定されます。

【今年度で閉校する学校】

- 浜猿弘小、稚内西中の閉校があります。

【職種ごとの異動動向状況】

- 中学校では教科の関係から異動の実現が困難になる場合が想定されます。
- 事務職員、養護教諭については異動が極少数に限られているようです。

宗谷の四季

今回は、雑誌「教育」1月号を大々的に取り上げました。本部・内藤も記事を書かせていただきました。宗谷教組として取り組んできたことを「集い、学び合う活動を組織しよう」というタイトルで執筆させていただきました。雑誌「教育」の編集には、二〇一一年の学び愛フェスタに来てくださった霜村三三先生が深く関わっていらっしゃいます。そうした縁もあって、今回の特集に関わらせていただきました。

「分会会議をしましょう」と言うことができるのは、分会長さんの特権ではありません。「分会会議で話をしたいなあと思うんです」って分会長さんの耳元でささやくことは、分会の活動を豊かにする第一歩なんだと思います。誰かが「やるんだ」というのではなく、「こういふことやってみよう」という分会が集うみんなの声を大切にするのが大事なんだと思います。2学期も残すところわずか、もうすぐ冬休み。健康と交通安全に気を付けてお過ごしください。リフレッシュして、二〇一五年を迎えましょう！

これからの民主主義への希望

衆議院選挙が終わりました。結果を見れば、自公合わせて326議席、投票率52%。安倍首相は「信任を受けた」とテレビのインタビューで答えていました。そうしたマスコミ報道の中に、これからの民主主義の希望がいくつかあるのではないかと感じました。

報道は「自公大勝」というが、実はそうでもないということ

前回の衆議院選挙に続き、またしても自民・公明両党がものすごく議席を取ったように感じます。マスコミもそのように報じています。しかし、その内実は、自民党が-2議席、公明党が+4議席ということになります。

また、各党の政策から「改憲」「脱原発」を支持する議員数をかぞえ、選挙前に比べて「改憲派」は減少、「脱原発派」は増加しているという現実もあります。

野党の議席数の変化

前回の衆議院選挙の時は「第三極」という、大きなうねり、ブームがありました。そんなことで、憲法改正・TPP参加・原発推進という点で与党と政策が似ている野党の躍進がありました。今回はそうしたうねりもほどほどに、躍進したのは民主・共産。それぞれ約10程度、議席を増やしています。こうした野党の力がどう発揮されていくのかということでは、今後の国会から目が離せません。

沖縄の「野党全勝」をどう見るか

沖縄では、「野党共闘」により、4つの選挙区すべてで野党が勝利をおさめています。1区は「共産 vs 自民」、2区は「社民 vs 自民」、3区は「生活の党 vs 自民」、4区は「無所属 vs 自民」というように、野党が共闘をして候補者を立て、『米軍普天間飛行場の辺野古移設にNo』という「オール沖縄」の選挙戦を野党が制する形となりました。

沖縄では1月の名護市長選、11月の沖縄県知事選挙、そして今回の衆議院選挙と、「辺野古移設反対」の民意が選挙結果につながっています。遠い北海道ではなかなか感じにくいですが、沖縄での有権者の政治参加への姿勢には学ぶところが多いように感じます。

これからの民主主義への希望

選挙結果を見ると、「小選挙区制」という選挙制度のもとでの「民意を反映させることの難しさ」や、小選挙区で敗退した議員が比例で復活当選する仕組みなど、『なんだかなあ』と思う部分があったりして、こういうことも、もしかしたら有権者の政治離れを進めているのかもしれない。こうした「政治家のための政治」になっている部分が、「私たち（国民）のための政治」となるよう運動を進めることが大切だと考えていきたいものです。

「今回の選挙戦は日程が短すぎて、有権者が情勢を理解する時間がなかった」というような分析も報道されています。確かに、今回の選挙戦では「選挙は突然やってくる」ということを痛感しました。今度の国政選挙は、2016年の参議院選挙です。そしてなにより、2015年には北海道知事選挙も。

私たちが日ごろから感じている目の前の子どもたちの暮らし、そこにある困難を読み解き教育実践を紡ぎながら、今後のこの国の在り様を考えることを大切にしたいものです。

		管内・他管希望あり	一般職から離れる	他管希望のみ	定数増減	合計	入りの希望数	過不足
北宗谷A								
小学校		20<5	3~5	0~5<5	-9	15<5	7~9<5	-5<5
中学校		15~20	0~3	5<5	±0<5	25<5	10~15<5	-10<5
利尻・礼文								
小学校		10<5	0~1	0~1	-2	5~10<5	3~5<5	-5より増える
中学校		5<5	1<5	1<5	+1	10<5	1~3<5	-5<5
北宗谷B								
小学校		5<5	0~1	2~3	±0	7~9<5	10~15	+0~5
中学校		5<5	0~1	0~1	±0	5<5	5<5	±0<5
南宗谷								
小学校		5<5	5<5	5<5	-1	15<5	5<5	-7~5
中学校		5<5	2~3	5<5	±0	10<5	5~10	±0<5

表の見方

希望	説明
管内・他管希望あり	管内希望のみ、あるいは「管内希望・他管希望あり」の方の数です。
一般職から離れる	管理職受検・退職・他府県受検・応募人事など、一般職から離れることが予想される方の数です。
他管希望のみ	希望がかなわれない場合など不確定な要素が含まれる数です。
定数増減	宗谷教職員組合による定数増減です。
合計	上記の要素を鑑みる「出の数」です。
入りの希望数	宗谷教職員組合による「入りの数」です。
過不足	予想される各エリアごとの過不足。必ずしも「合計」と「入りの希望数」の差引は一致しません。